

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
 会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	安全パトロール実施事業
事業実施前の状況 (～R3年度)	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後アナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定でき、隊員のアクセスが良好になった。</p> <p>H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p> <p>R1年以降は、隊員の高齢化が進み、80歳になったのを機に除隊の申し出が多くなった。R2年以降は、免許証なしだが、同乗でパトロールをお願いして隊員補充を行なっている。</p> <p>事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が高んだ。さらに、R3年2月、3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。</p> <p>令和4年1月に、デイズのバッテリーが上がり、バッテリーを交換し、100Vチャージ器で定期的にバッテリーの充電点検を行うことにした。</p>

事業名	安全パトロール実施事業
事業実施後の状況 R4年度	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p> <p>R4年度は昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の出勤が激減した。補充のため、多数回の乗務をして頂く隊員に夫婦での乗務をお願いした。</p>
事業の効果 (～R3年度)	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。</p> <p>また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。</p> <p>令和2年度からは、駐車違反やゴミ不法投棄、猫ことで度々地域住民に呼び止められることが多くなったが、池田署や市役所への連絡でしたか対応することができない。</p>
事業の効果 R4年度	<p>朝のパトロールは走行よりも主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>
今後の課題等	<p>隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュールに空欄が多々生じている。</p> <p>出勤が二人ペアが鉄則であるため、65歳以上の高齢者の同乗をお願いして運行スケジュールを凌いでいる現状であるが、交通に閉鎖的な地域が幸いして、パトロールにおける事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。</p>

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙のとおり、地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
<p>事業実施前の状況</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。</p> <p>また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。</p> <p>平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。</p> <p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。</p> <p>平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。</p> <p>平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。</p> <p>令和2年度は、実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。</p> <p>コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額の交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた。</p> <p>令和3年は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
<p>事業実施後の 状況</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>本年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は微増であったが、プラザ全体では大幅に増加した。</p> <p>おでかけサポートグリスロの実証実験の拠点としてコミプラを活用できた。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なう中、自動体温計とアルコール消毒液を設置し、来場者に使用を促し、安全第一で運営を行なった。</p> <p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、R4年4月1日からR5年3月31日までの実績で、6,234名の利用を頂いた。</p> <p>来訪者のうち、子育て支援ルームを主目的とした利用者は、約750名であり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月は支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は微増であったが、プラザ全体では大幅に増加した。</p> <p>グリスロ実証実験と山びこフェスタの開催、他のイベントなど、土曜日の稼働が利用増に影響している。</p>

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
今後の課題等	<p>           コミプラのフリーサロンの利用者数は、コロナ禍で減少したが、これが回復し増加し、キオスク端末の利用も増加し、トイレのみの利用も多くなっており、コロナ感染症の拡大は今後も続くと考えられ、換気と消毒を定期的に行う必要がある。しかし、掃除スタッフの不足がありため、外部委託を検討したい。         </p> <p>           子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。また、社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。         </p> <p>           はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子度たちが利用できるように図りたい。         </p> <p>           プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、コミプラには、建築協定連合委員会の事務局も配置しており、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。         </p> <p>           コミプラの留守番役のスタッフ、現在11名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くない。         </p>

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙のとおり、コミュニティサロン設置事業の評価を報告します。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。</p> <p>里山の植物を紹介するグループの展示会場として利用された。</p> <p>総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。</p> <p>地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。</p> <p>宿題カフェ会場として利用されている。</p> <p>夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。</p> <p>ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。</p> <p>高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。</p> <p>山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p> <p>令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。</p> <p>また、伏尾台送迎サービスが国交省の日本版MaaS実証実験の中に組み入れられて令和2年12月～令和3年2月に実施され、実験拠点として利用された。</p> <p>令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>



事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施後の状況	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、ほそごう学園生の宿題をグループで行う生徒、試験前の高校生グループ、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。</p> <p>令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能しており、R2.12-R3.2の国交省の日本版MaaS実証実験に続いて、R4.10-12に、トヨタグループの協力のもと、お出かけサポートグリスロの定時定路線の送迎サービス実証実験の送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能した。</p> <p>コロナ感染症の拡大と共に、従前のコミュニティサロンの利用者が大きく減少した。特に会議の類は利用者数を制限した会議をお願いした。</p> <p>その反面、らくらく送迎の利用者、お出かけサポートグリスロの利用者が増大してサロン自体の利用者減を補う形になっている。また、キオスク端末の利用が、マイナンバーカードの普及とともにコロナ禍で外出が控えられているため増加している。</p>
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,234名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>
今後の課題等	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。</p>

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙のとおり、まちの情報センター運営事業の評価を報告します。

事業名	まちの情報センター運営事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは 5,210名が来訪された。</p> <p>令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。</p> <p>令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。</p>
事業実施後の状況	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」の 카테고리に分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。</p> <p>ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。</p> <p>市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。</p> <p>コロナ感染症拡大の影響で、利用者が減少する中、キオスク端末の利用者は増加している。</p>

事業名	まちの情報センター運営事業
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,234名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>
今後の課題等	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されており、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できている。</p> <p>今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p> <p>令和5年度は、コミュニティサロンの壁だけでなく、サロン内での掲示が可能な掲示板システムを導入し、サロンでのイベントとして、写真や絵画、図工作品などの展示会を開催することでコミュニティの創出、情報交換の促進を図る情報センターとしたい。</p>

様式第5号(第7条関係)

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙とおり、子育て支援環境整備事業の評価を報告します。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施前の状況	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であった。</p> <p>平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p> <p>令和2年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは 3,744名が来訪された。</p> <p>令和3年度は、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施後の状況	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、幼稚園児となる家庭が多く、80組に減少し、コロナ禍で8月にルームの使用を停止し、その後は人数制限を行ったため、述べ750名であるが、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。</p> <p>保育所等で2歳児から預かる制度が進み、早くから託児する家庭も増えるなどして、利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>
事業の効果	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集いは中止した。ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し好評を得た。</p> <p>月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となって好評であったが、コロナ感染症拡大の防止で中止した。七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>

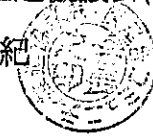
事業名	子育て支援環境整備事業
今後の課題等	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が例年多く、夏休みなどに、はぐのさと、旧伏尾台小学校の旧なかよし会の部屋を開放する計画を立てたい。</p> <p>今後、感染症の拡散防止のために、空気清浄機を効率よく使用することを想定するが、感染予防に対する意識が少ない母親が多く、清掃も後片付けも利用者がある程度行うことをお願いするも、住民の管理下にあることが理解できず、市の施設だから自分たちはしないという意識がとても強いことに驚いている。</p> <p>綺麗で便利な施設があれば利用するが、掃除や片付けまではしたくないと明言する母親が多い。今後の運営を抜本的に見直す必要がある。</p>



令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
 会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況 ① (~H30年度)	<p>伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子カラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p>

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況 ② (～R3年度)	<p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青パトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p> <p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p> <p>令和元年年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報誌第21号を全戸配布した。</p> <p>令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙代22号を全戸配布した。</p> <p>ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミプラの子育て支援ルームの活用を広報している。</p> <p>ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほそごう学園の卒業式のために祝登りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進めた、はぐのさと リサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。</p> <p>令和3年度は、本事業は提案されていないが、ふしおだい第25号を令和4年3月末に全戸配布した。伏尾台の四季の花を表紙にしたもので、コミ協って、何なのですか？ Q&amp;A形式で、コミュニティ推進協議会の活動を紹介して、過去の活動これからの活動課題を紹介した。</p>

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施後の状況 R4年度	<p>ふしおだい第26号は、令和4年12月末に全戸配布され、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこファスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、お出かけサポートグリスロ実証実験 を紹介した。</p> <p>ふしおだい第27号は、令和5年4月に全戸配布され、はぐのさと（旧伏尾台小学校）の活用が進んでいることの紹介写真と共に、教室を貸し出しスペースとして紹介している。R5年1～3月のやまびこ寄席の報告を行った。さらに、R5年度の活動予定として、夏休みに親子の居場所として親子ランドを開催する旨紹介し、コミプラに新たな掲示システムを導入することも紹介した。また、協議会のR5年度の実施予定事業を紹介した。</p>
事業の効果	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があったが、相変わらず協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報に関しての効果は見られない。</p> <p>平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>特に、令和3年3月下旬にはほそごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動に関する講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。</p> <p>令和4年度も、ほそごう学園での講師の依頼を受けた際に、テキスト、参考資料として活用できた。</p>
今後の課題等	<p>コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となり、広報誌を通じての活動の報告は重要であった。しかし、R3年度の事業提案がなされていない際の発行ルーチンが守られず、大きく発行時期がずれ込む癖が付き、年度を跨いで配布していた。</p> <p>令和5年度は、年3回の発行に変更し、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように、手始めに、インスタグラム作りに着手した。</p>

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
 会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

下記のとおり、実施事業の評価を報告します。

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況 ① (~H30年度)	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度1074戸毎年減少)</p> <p>平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。12月27日,29日,30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た</p>

事業名	防犯防災啓発事業
<p>事業実施前の状況</p> <p>② (～R3年度)</p>	<p>平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。</p> <p>6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。</p> <p>8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。</p> <p>8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。</p> <p>11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数学年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。</p> <p>12月27日,29日,30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。</p> <p>R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。</p> <p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月9日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。</p> <p>訓練活動は、6月21日、資機材の点検使用訓練に12名参加。</p> <p>11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「蜜にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。</p> <p>住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3蜜を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。</p> <p>令和3年度は、事業提案を行っておらず、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月8日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替えた。</p> <p>訓練活動は、6月20日の資機材の点検使用訓練は中止した。</p> <p>10月31日に旧伏尾台小学校職員室で、「蜜にならない避難所運営訓練」を隊員のみ40名で行い、R2年度の補助金で購入した間仕切りテントの使用訓練を行った。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から45分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延45人で実施した。</p>

事業名	防犯防災啓発事業
<p>事業実施後の状況 令和4年度</p>	<p>令和4年度は、コロナ禍であるが、総会(5月14日)の開催を行った。全ての定例会議を書面通知に替えた。特に、R5年3月定例会を中止して、R5年4月1日に年度末会議、防犯教室を開催し、30人の参加があった。</p> <p>訓練活動は、6月19日、資機材の点検使用訓練に20名参加。11月6日にはほそごう学園で総合防災訓練を行なった。4年生、8年生をはじめ住民ら450人の参加を得た。</p> <p>4、8年生には特にマイタイムラインの作成訓練を受けてもらい、R2年度購入の間仕切りテント、4年度の簡易ベッドを使用して、避難所設営訓練を実施した、</p> <p>さらに、R2年度購入の炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を用い、約500人分の炊き出し訓練が実施できた</p> <p>啓発活動として、12月27日に歳末警戒発隊式に20人、29日には子供会の参加があり、50名でパトロールを行い、30日んは30名で、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して実施した。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>令和4年度は、引き続きコロナ禍であり、活動は、資機材の点検使用訓練、総合防災訓練、年末警戒パトロール、防犯教室の開催のみであった。</p> <p>購入備蓄した間仕切りテント、簡易ベッド、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を使用した、避難所設営訓練、炊き出し訓練を450名の参加を得て行うことができ、今後の有効活用が期待できる。</p> <p>地域の安全を高齢者と共に考えて貰えるように、子ども会の参加が得られ、好評であったため今後も継続して開催したい。</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>コロナ禍が続き、備蓄資機材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状態が続き、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われる。</p> <p>活動を担ってもらおう伏尾台防災・防犯委員会においても、高齢化で除隊する委員が増加し、90名から一気に70名台に激減したことが大きな課題となっている。</p>

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙のとおり、伏尾台地域活性化事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域活性化事業
事業実施前の状況	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。</p> <p>平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。</p> <p>平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。これまで31回の山びこフェスタを開催した。</p> <p>令和2年3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、令和2年前期も引き続き、イベント開催を中止した。10月25日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室にて、第32回 山びこ寄席 二人会を開催した。11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。</p> <p>令和3年度は、事業提案限度額削減のため、事業提案できなかった。</p>
事業実施後の状況	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、換気を行うコンプラ入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取り50人定員とし、マスク着用で着席していただく形で、山びこフェスタを6回開催した。</p> <p>9月10日(土) 第34回お笑いライブ リピート山中</p> <p>10月22日(土) 第35回落語会 桂楽珍 露の棗</p> <p>11月26日(土) 第36回音楽ライブ 大申明子,新井正美,井上比佐子</p> <p>1月28日(土) 第37回落語会 林家菊丸 月亭希遊</p> <p>2月25日(土) 第38回子供向け落語会 林家菊丸</p> <p>3月18日(土) 第39回お笑いライブ リピート山中</p>



事業名	伏尾台地域活性化事業
事業の効果	<p>6回の山びこフェスタは、コミプラで50人定員制で実施したため、毎回、観客50名とスタッフ出演者を合わせると、55名～60名の動員であった。</p> <p>コロナ禍で2年近くのブランクがあり、定員超えを避けるため、掲示板への告知のみで、特段の広報を行わなかったが、毎回定員の観客が参集して、大いに笑い声が上がった。</p>
今後の課題等	<p>久しぶりのイベントに、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。</p> <p>令和2年頃までは、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多かった。</p> <p>今回もコロナ感染症対策のため、先着50名として掲示板に掲載するのみの広報を行なったが、毎回定員の50名に達した。</p> <p>地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされてる方が増加していることが確認できたが、今後ともコロナウイルス感染症の拡散防止のため、定員制で、開催回数を増やすなどの方策が必要である。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

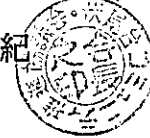
事業名	伏尾台創生会議2020宣言広報事業
事業実施前の状況	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。</p> <p>この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。</p>
事業実施後の状況	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。退色は少しであるが、汚れが目立つようになっている。</p>
事業の効果	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往来者に広報できている。</p> <p>昨年、1丁目に居住し、11月に出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>
今後の課題等	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。</p>

様式第5号(第7条関係)

令和5年5月31日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

別紙のとおり、伏尾台地域送迎サービス事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施前の状況 (R3年度まで)	<p>伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢や病気などで運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対しての救済手段が全くなかった。</p> <p>そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。</p> <p>送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組みすることで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。</p> <p>コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けることができるようにした。</p> <p>送迎車両は、リース契約を行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に乗務可能な日時を登録しておき、利用者の申し込み日時とのマッチングを図り、送迎を行った。</p> <p>一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、採択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。</p> <p>MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、述べ520回を超え、送迎人数は800人を超えた。</p> <p>令和3年7月末時点で、登録者数は200名を超え、送迎申込回数は800回を超え、送迎人数は1070名を超えた。</p>

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
事業実施後の状況	<p>令和4年度は、キャンセルを含み321件の申し込みがあり、1086名の送迎を行なった。</p> <p>令和4年1月にトヨタグループより、7人乗り電動車(GSM)で定時定路線走行を行う無予約型の送迎サービス実証実験の申し入れがあり、前日までの予約型「らくらく送迎」を行いながらの同時並行で、「おでかけサポートグリスロ」として、10月末から12月下旬まで実証実験を行なった。</p> <p>伏尾台1丁目と2丁目の3コースを走行する「おでかけサポートグリスロ」実証実験では、新規登録者約150名、395名の利用があった。</p>
事業の効果	<p>年間、321件の予約、1068名の送迎を行い、送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。</p> <p>「おでかけサポートグリスロ」実証実験の開始前後に高齢者を対象にアンケート調査が、日本福祉大学の主導のもと実施され、送迎サービスの利用が健康寿命の延命に効果があることが判明した。</p> <p>予約型「らくらく送迎」で1068名、予約なし「おでかけサポートグリスロ」で395名の利用者は、ほぼ重複することなく、個別の需要であることが判明した。</p>

事業名	伏尾台地域送迎サービス事業
今後の課題等	<p>無償ボランティアドライバーは、事業のスタート時から2名が健康上の理由からリタイアしたが、幸い2名の補充が叶い現在に至り、現在10名である。</p> <p>しかし、スケジュールのローテーションに欠員を生じて、数名に負担が集中するようになっている。</p> <p>平均年齢76歳のドライバーが、平均年齢85歳の登録者を送迎しており、本事業が地域に不可欠な事業となった今、登録者数は増加傾向にあり、当然平均年齢が上昇する中、送迎ドライバーの確保とともにその平均年齢を60歳代に引き下げることが急務と言える。</p> <p>伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている。</p> <p>なんとか協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体あるいはタクシー会社に事業委託する形態の事業、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3  
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)  
会長名 川野 芳紀



## 事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	ほそごう地域花いっぱい運動支援事業
事業実施前の状況	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区)と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要があった。
事業実施後の状況	必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もキンセンカ、ラバテラのプラグ苗を約500株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成したパンジー、ビオラは、令和4年12月12日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。
事業の効果	ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。
今後の課題等	義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して支援したい。